

一般演題1 O1-2 2018年度の診療報酬改定を受けて

青木教郎¹⁾ 山本茉彩¹⁾ 秋本大輔¹⁾
齊藤達志²⁾

- 1) 函館厚生院 函館中央病院 臨床工学科
- 2) 函館厚生院 函館中央病院 麻酔科

【はじめに】

2018年度より高気圧酸素治療（以下HBO）の診療報酬が大幅に改定され、収益の改善や治療件数の増加が期待されている。今回当院における診療報酬改定前後の診療科、治療件数、診療報酬額を後方視的に検討したので報告する。

【現状】

HBO装置は、小池メディカル社BARAMEDの第1種装置1台で治療を行っている。2014年から2018年度までの5年間の治療件数は、平均964件/年であり、約半数が耳鼻咽喉科からの紹介であった（図1）。診療科別では、形成外科で近年増加傾向であった。その他の診療科では、多少ばらつきがあったものの例年通りであった（図2）。診療報酬額は、2018年4月以降で大幅な増収となった（図3）。

【考察】

治療件数や診療科別では、診療報酬改定による変化はほとんどなく、当院での影響は少なかった。近年では、形成外科からの末梢循環障害の治療件数が増加傾向であったが、これは糖尿病関連疾患の患者が増加したことが要因であると推測された。診療報酬額では、改定前と比較すると約3倍の増益となった。この試算を鑑みた上で、院内の注目度が高まった為、今後は装置2台体制となる見込みである。当院は、現在定員6名/日で運用している為、連日治療

できる人数が限られている。しかし、今後は12名/日まで治療可能となり、以前よりも早期回復及び在院日数の減少が見込める。一方、治療件数の増加によってインシデントリスクも増加する。現在の技士1名体制では、急変、事故、装置の故障時の対応には限界があるが2台体制となれば技士2名でのボディチェックの徹底、急変時の人員確保、故障時の俊敏な対応を取ることが可能となり、結果今までよりも安全な治療を提供できると考えている。

【結語】

2018年の診療報酬改定を受けて大幅な増益となった。これにより、院内での注目度も高まり、結果2台体制への足がかりとなった。連日治療可能な患者数も増え、早期回復及び早期退院が見込める。また、台数が増えることで技士も増員されるため、安全教育の徹底が急務である。

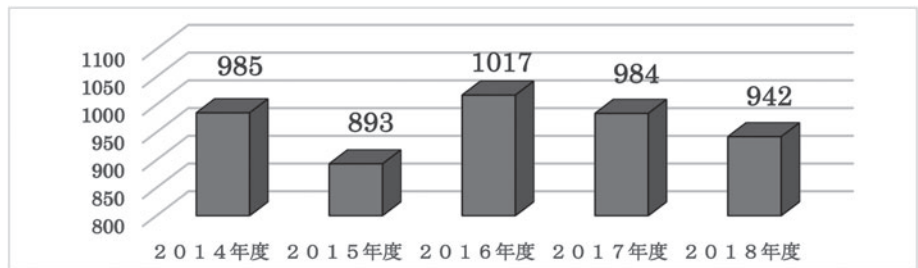


図1 5年間の治療件数

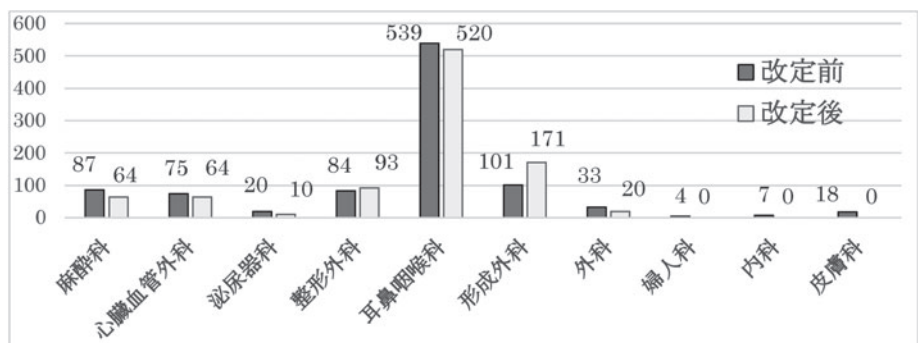


図2 診療報酬改定前後の診療科別件数



図3 5年間の診療報酬額